

2025年度
公益社団法人日本看護協会

改選役員及び推薦委員選挙

選挙公報

公益社団法人日本看護協会
選挙管理委員会

〈記載事項について〉

- ※ 記載の年齢は、2025年6月11日現在です。
- ※ 〔勤務先〕及び〔協会活動歴〕の現職は、2025年3月31日現在です。
- ※ 〔主な看護業務従事歴〕は、経歴より抜粋し記載しております。
- ※ 〔抱負〕は、「公益社団法人日本看護協会 選挙及び選挙管理委員会に関する規則」に則り、候補者から提出のあった原文のまま掲載しています。

※順位は改選役職ごとに五十音順で掲載しています。

◆◆◆ 会長候補者（候補者1／現任1、改選1）◆◆◆

秋山 智弥 (あきやま ともや) 1

◆◆◆ 副会長候補者（候補者2／現任3、改選2）◆◆◆

任 和子 (にん かずこ) 2

山本 則子 (やまもと のりこ) 3

◆◆◆ 理事（候補者4／現任7、改選4）◆◆◆

浅香 えみ子 (あさか えみこ) 4

木澤 晃代 (きざわ あきよ) 4

田母神 裕美 (たもがみ ゆみ) 5

中野 夕香里 (なかの ゆかり) 5

◆◆◆ 地区理事（候補者25／現任47（都道府県に各1）、改選25）◆◆◆

宮城県 浦山 美輪 (うらやま みわ) 6

山形県 若月 裕子 (わかつき ゆうこ) 6

福島県 佐藤 博子 (さとう ひろこ) 7

茨城県 中島 貞子 (なかじま さだこ) 7

群馬県 神山 智子 (かみやま ともこ) 8

埼玉県 澤登 智子 (さわと ともこ) 8

神奈川県 本館 教子 (もとだて のりこ) 9

山梨県 遠藤 みどり (えんどう みどり) 9

長野県 松本 清美 (まつもと きよみ) 10

石川県 小林 千鶴 (こばやし ちづる) 10

福井県 五十嵐 行江 (いがらし ゆきえ) 11

静岡県 松本 志保子 (まつもと しほこ) 11

三重県 谷 眞澄 (たに ますみ) 12

兵庫県 丸山 美津子 (まるやま みつこ) 12

鳥取県 松本 美智子 (まつもと みちこ) 13

島根県 池田 康枝 (いけだ やすえ) 13

広島県 黒瀬 真理子 (くろせ まりこ) 14

山口県 原田 美佐 (はらだ みさ) 14

※順位は改選役職ごとに五十音順で掲載しています。

徳島県	庄野 泰乃	(しょうの やすの)	15
愛媛県	久保 幸	(くぼ さち)	15
高知県	森下 安子	(もりした やすこ)	16
福岡県	濱田 正美	(はまだ まさみ)	16
佐賀県	藤満 幸子	(ふじみつ さちこ)	17
大分県	玉井 保子	(たまい やすこ)	17
沖縄県	平良 孝美	(たいら たかみ)	18

◆◆◆ 監事 (候補者1 / 現任4、改選1) ◆◆◆

佐藤 悦子	(さとう えつこ)	18
-------	-----------	----

◆◆◆ 推薦委員 (候補者11 / 現任11、改選11) ◆◆◆

青木 春美	(あおき はるみ)	19
伊東 恵美子	(いとう えみこ)	19
炭谷 みどり	(すみたに みどり)	20
田瀬 裕子	(たせ ゆうこ)	20
谷口 理恵	(たにぐち りえ)	21
新納 郁子	(にいの いくこ)	21
西岡 令子	(にしおか れいこ)	22
畑 幸枝	(はた さちえ)	22
早川 みつほ	(はやかわ みつほ)	23
山本 純子	(やまもと じゅんこ)	23
吉田 智枝美	(よしだ ちえみ)	24

◆◆◆ 会長候補者 ◆◆◆

推薦委員会推薦

あきやま

ともや

秋山 智弥

57歳

新



〔勤務先〕

国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学医学部附属病院

〔主な看護業務従事歴〕

1992年4月 東京大学医学部附属病院 看護師
2011年4月 京都大学医学部附属病院 病院長補佐・看護部長
2017年4月 岩手医科大学看護学部 特任教授
2021年4月 名古屋大学医学部附属病院 教授

〔協会活動歴〕

日本看護協会：労働と看護の質データベース事業の推進に関する検討委員（現職）、副会長、日本看護サミット2021実行委員長、入院機能に応じた看護職員配置に関する調査検討委員、クリニカルラダー推進委員長、「看護の将来ビジョン」有識者懇談会委員
愛知県看護協会：認定看護管理者教育課程教育運営委員（現職）、看護師特定行為研修管理委員（現職）
岩手県看護協会：第50回日本看護学会（急性期看護）抄録選考委員長
京都府看護協会：第43回日本看護学会（看護管理）運営委員、第40回日本看護学会（看護総合）運営委員

〔抱負〕

私は2017年から2023年までの6年間、日本看護協会副会長の任を全うしました。その過程で、各都道府県看護協会や看護連盟はもとより、行政や他団体、アカデミアとの連携を通して人的ネットワークを広げて参りました。現在は、認定看護管理者教育や特定行為研修をはじめ、地域の看護職を対象とした様々な研修事業を通して、看護職の資質向上に努めています。

「2025年問題」と呼ばれた2025年が幕を明けました。医療介護総合確保推進法制定から10年の準備期間には、思いがけずコロナ禍が生じ、また、度重なる自然災害や不安定な世界情勢等の影響も受け、急激な物価高から経営が圧迫される医療機関も増えています。看護職は、増員もままならぬまま、医師の働き方改革と激増する高齢患者への対応に追われ、業務の負荷は急激に増しています。一方、処遇改善は世の中の動きにも追いつかず、深刻な人材不足へと突き進みつつあります。一刻も早くこの悪循環を断ち切り、好循環へと転換しなければなりません。

現在、日本看護協会は看護のプレゼンスを高めるための岐路に差し掛かっており、幾つかの重要な意思決定に迫られていると感じています。一つ目は看護の専門性の確立と可視化です。多職種連携において看護の専門性の明示は重要であり、看護師としてとるべき行動や発言を躊躇なく伝え、最期まで患者を擁護し、ケアをコーディネートしていく力が求められています。また、急性期から在宅まで、専門性の高い看護の取り組みの成果を目に見える形で社会に発信していく必要もあります。二つ目は看護職の資質向上です。医療が高度化する一方、人々の生活が多様化する中で、看護職には迅速な状況判断と行動力が求められるようになっていきます。そのため、豊かな教養とクリティカルなものの見方、観察力と洞察力、他者への関心と高いコミュニケーションスキルを卒前から備え、就業後の実践を通して磨き上げていくシームレスな教育体系が求められます。三つ目は就業継続が可能な働き方の実現と処遇の改善です。ICTやAIを積極的に活用するとともに、適正な人員配置によって夜勤や長時間労働の負荷を軽減し、ワークライフバランスを維持しつつやりがいを持って働き続けられる就業環境を整備していく必要があります。また、看護の対価に見合う処遇の改善も求められます。

VUCAの時代、的確な状況判断に基づき、スピード感をもって意思決定していくことが大切です。そのためには、心理的安全性が保たれた組織文化の中で、重要な情報が迅速に集まる仕組みが求められます。また、重要な看護政策を実現するためには数の優位性が不可欠であり、職能団体としての結束の強さを数で示していかなければなりません。それ故に、会員数の確保は何よりも重要であり、全力でこれに努めて参ります。

◆◆◆ 副会長候補者 ◆◆◆

推薦委員会推薦



にん かず こ
任 和子

63歳

現

〔勤務先〕

国立大学法人 京都大学

〔主な看護業務従事歴〕

1984年 4月 京都大学医学部附属病院 看護師
2000年 5月 名古屋大学医学部保健学科 助教授
2007年 4月 京都大学医学部附属病院 病院長補佐・看護部長
2011年 4月 京都大学大学院医学研究科 教授

〔協会活動歴〕

日本看護協会：副会長（現職）、看護の専門性の発揮に資するタスク・シフト/シェアに関するガイドライン作成委員長、看護業務効率化・生産性の向上に関する本会方針検討ワーキンググループ委員、看護業務効率化・生産性向上推進ワーキンググループ委員、看護チームにおける業務のあり方に関するガイドライン作成委員長、看護記録に関する指針検討委員長、看護師職能委員会 I 病院領域委員
京都府看護協会：認定看護管理者教育課程運営委員、実習指導者講習会運営委員、がん放射線療法看護教員会委員、医療安全管理者養成講習会運営委員

〔抱負〕

このたび、日本看護協会副会長としての推薦をいただき、2期目に向けて抱負を述べる機会をいただきました。副会長として1期目を務めた経験を通じて、看護職の重要な役割を再認識し、これからの看護の未来に向けて強い使命感を抱いています。

1期目の活動を通して、看護政策の課題をあらためて理解し、現場の皆さまの声をより明確に聞くことができました。この2年間は、2040年問題を踏まえた将来ビジョンの策定を行う時期でした。人口構造の急激な変化や医療・看護のニーズの多様化に直面し、看護職の役割は一層重要になっています。2040年に向けて、看護職が人々の健康と尊厳を守るためには、今まで以上に専門性と自律性を高め、複雑化する社会的ニーズに対応する力を強化する必要があります。どのようにして人々の健康で平穏な暮らしを支え続けられるかを考え、看護職としての貢献をより深く意識するようになりました。

現在、私が関心を寄せていることは以下の二つです。一つ目は、看護職が成長実感を持てる環境作りです。看護職への投資や教育資源の充実を進め、看護職が自らの専門性を活かし、さらに成長できる環境を整備することが急務です。看護職がその役割を果たしやすい環境を作るためには、効率的な業務運営と生産性向上が不可欠です。AIやデジタル技術の導入は、看護の質を向上させ、現場での看護職の負担軽減に繋がると確信しています。さらに、これからの働き方改革において提唱されている「多様で柔軟な働き方」の実現も重要です。私は、「多様で柔軟な働き方」は、「好きなように生きる」というライフスタイルを追求することだと考えています。看護職も自分らしい生活と仕事のバランスを取り、充実した人生を送ることが求められます。そのためには、新しい働き方の創造と実現が必要です。看護職が自分の人生を自由にデザインできる環境を整えることは、看護職のモチベーションを高め、組織全体の活性化にも繋がります。

二つ目は、看護職員の処遇改善に関する取り組みです。近年、国家公務員医療職俸給表の改正やベースアップ評価料など、看護職の給与体系が改善される政策が実現しましたが、さらなる改善が求められています。私は「看護の価値は、人々が『いつものように生きる』ことを支えることにある」という信念を持っています。この専門性を発揮するために、看護職の価値を社会に伝え、政策をつくる必要があります。看護職のキャリアアップに伴う処遇改善を進め、看護職が生涯を通じて安心して働けるような政策に貢献したいと思います。

2期目を迎えるにあたり、私はこのような未来に向けた看護職の変革を推進し、皆さまとともに、より良い社会づくりに貢献したいと考えています。引き続き、日本看護協会副会長として、皆さまと力を合わせて、職能の発展と人々の健康と尊厳を守り続けるために尽力していきます。

◆◆◆ 副会長候補者 ◆◆◆

推薦委員会推薦



やまもと

のりこ

山本 則子

61歳

現

〔勤務先〕

東京大学大学院医学系研究科

〔主な看護業務従事歴〕

1986年 4月 東京白十字病院 看護師

1987年 4月 虎ノ門病院 看護師

2003年 4月 埼玉医科大学総合医療センター訪問看護ステーション 看護師

2012年 4月 東京大学大学院医学系研究科 教授

〔協会活動歴〕

日本看護協会：副会長（現職）、看護の専門性の発揮に資するタスク・シフト/シェアに関するガイドライン作成委員、看護政策推進のためのエビデンス構築体制のあり方検討委員、介護施設等における看護職員の役割・業務のあり方に関する検討委員

〔抱負〕

副会長という大役を過去2年間務めさせていただきました。この2年間で、日本看護協会の持っている力を様々な場面で実感しました。日本の全ての看護職能が健全にのびのびと職務を果たすことができるように、看護の制度に関する政策に大きなインパクトを与えていること、看護職能のために生涯学習のモデルを作り多様な研修プログラムを提供していること、年間の活動計画のもとに、看護に関連するあらゆる場面で幅広く活動していることなどです。不慣れな中でも、みなさまの代表であるという自覚を忘れずやってみましたが、十分でなかった点も多かったと反省しています。この経験の蓄積を最大限活用して、副会長の職務を継続させていただくことを希望しています。

人口減少・超高齢化が進行する日本社会において、看護も保健医療全般も大きく様変わりすることが求められています。変化する社会のなかでも、看護職能がその実践形態を変化させつつ、国民の健康とウェルビーングを守るために十全に機能できるようにしていかなければなりません。私は、日本看護協会において、そのように変化する社会のなかで看護実践がより発展していけるよう、働いていきたいと願います。看護職は医療の専門職の中で最多の職能であり、職務の範囲も他のどのような職能よりも幅広く、人々の健康とウェルビーングに責任を持つ重要な職種です。そのような看護が、これまで以上に、人々のニーズを敏感に感じ取りつつ実践の新たな形を先取りすることができるように、保健医療におけるリーダーシップを率先して担うことができるようにしていかなければならないと思います。日本看護協会は、看護職の皆様を支える組織、さらにそれを通して日本国民を支える組織として、都道府県看護協会との緊密な協働体制の下でより真摯に機能を高めていく必要があると考えています。また、看護学教育に係る諸団体、看護学研究に関連する諸団体等との協働体制もとても大切であることを感じています。日本看護系大学協議会、日本看護系学会協議会、日本看護科学学会等での役員として活動してきた私の経験も、多少なりとも役立てることができるのではないかと考えています。

近年、会員数の減少を嘆く声があちこちで聞かれます。時代の変化と共に、特定の職能が団結力を活かして活動していくというやり方は評価されなくなってきているのかもしれませんが、一方で、副会長という職に就かせていただきその立場から他の職種の様子を拝見していると、看護職の働き方やその機能を守り拡大していく上で、日本看護協会という職能団体の力を実感せずにはいられませんでした。会員の皆様、看護職の皆様の声をよく聞き、そのニーズを機敏に捉え反映し、団体の力を実感していただける組織としてますます発展できるように、私の持っている力を使わせていただけることを願っています。

◆ ◆ ◆ 理事 ◆ ◆ ◆

推薦委員会推薦



あさ か

浅香 えみ子

59歳

新

〔勤務先〕

国立大学法人 東京科学大学病院

〔主な看護業務従事歴〕

1987年 4 月 獨協医科大学越谷病院 スタッフ
2005年 4 月 日本看護協会看護研修学校 専任教員
2008年 4 月 獨協医科大学埼玉医療センター 看護副部長
2020年 4 月 東京科学大学病院 副病院長兼看護部長

〔協会活動歴〕

日本看護協会：新たな認定看護師教育検討委員、認定看護師制度再構築検討委員、認定看護師制度副委員長

東京都看護協会：看護制度委員（現職）

〔抱負〕

専門性の高い看護職の役割発揮の推進や労働環境改善により働き続ける看護師が増加した一方、看護が国民のニーズに応えたくともできない現状を経験してきました。

看護職の多くは組織に属しており、その活躍を発展させるためには看護職の組織経営力や運営力を高める必要性を感じています。これにより多様な看護提供体制や働き方を実装に繋げ、看護職の生活の安定とニーズに応えられる体制づくりに向け尽力します。

◆ ◆ ◆ 理事 ◆ ◆ ◆

推薦委員会推薦



きざわ

木澤 晃代

あきよ

56歳

現

〔勤務先〕

公益社団法人 日本看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1997年 4 月 公益財団法人筑波メディカルセンター筑波メディカルセンター病院 看護師長
2015年 4 月 日本看護協会 看護研修学校（筑波メディカルセンターより出向） 主任教員
2017年 4 月 日本大学病院 看護部長
2021年 6 月 公益社団法人日本看護協会 常任理事

〔協会活動歴〕

日本看護協会：常任理事（現職）

東京都看護協会：中部地区支部長

〔抱負〕

3期目を迎えることとなりました。資格認定3制度、看護師の特定行為に係る研修、中医協の専門委員を担当しております。今年度は認定看護管理者制度の改正、認定看護師、専門看護師の戦略的な養成に取り組めます。また令和8年度診療報酬改定の議論に看護の立場から積極的に参画します。柔軟な思考で看護を創造し、着実に職責を果たす所存です。

◆◆◆ 理事 ◆◆◆

推薦委員会推薦



た も が み ゆ み
田母神 裕美

56歳

現

〔勤務先〕

公益社団法人 日本看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1991年4月 日本赤十字社医療センター 看護師、助産師
2003年4月 厚生労働省 医政局看護課 助産師係長
2014年4月 日本赤十字社本社 事業局看護部 参事
2021年6月 公益社団法人日本看護協会 常任理事

〔協会活動歴〕

日本看護協会：常任理事（現職）、看護師職能委員会Ⅱ委員長（現職）

〔抱負〕

2040年に向かう社会において、看護職の役割が一層重要性を増していく中、複雑・多様化する国民のニーズに応え、質の高い看護を提供し続けるためには、看護提供の基盤となる制度の充実強化に取り組む必要があります。本会で4年間、在宅看護、介護保険制度における看護の充実、看護基礎教育の課題解決に、多くの皆様からのご意見をいただきながら取り組んできました。目指す姿に向かって、取り組みを進めるため尽力いたします。

◆◆◆ 理事 ◆◆◆

推薦委員会推薦



な か の ゆ か り
中野 夕香里

60歳

現

〔勤務先〕

公益社団法人 日本看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1998年4月 財団法人日本医療機能評価機構 研究主幹
2019年4月 公益社団法人日本看護協会 国際部長
2023年6月 公益社団法人日本看護協会 常任理事
2024年6月 公益社団法人日本看護協会 専務理事

〔協会活動歴〕

日本看護協会：専務理事（現職）、常任理事

〔抱負〕

常任理事として保健師、災害支援ナース、国際関連の事業等を、現在は専務理事として組織の内部管理と強化、広報活動、対外的な調整・交渉等担当しています。看護職がより安全に安心して活躍できること。この実現に向けた政策の推進が日本看護協会の役割ですが、何より大事なことは現場に直結した政策であることです。現場の看護職に寄り添う職能団体であること、そして皆様の共感のもとで活動基盤の強化をはかることに尽力します。

◆◆◆ 地区理事（宮城県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



う ら や ま み わ
浦山 美輪 60歳 新

〔勤務先〕

東北大学病院

〔主な看護業務従事歴〕

2001年 4 月 東北大学病院 副看護師長
2008年 4 月 東北大学病院 看護師長
2017年 4 月 東北大学病院 副看護部長
2023年 4 月 東北大学病院 副病院長 看護部長

〔協会活動歴〕

宮城県看護協会：副会長（現職）、代議員

〔抱 負〕

高齢化社会の中、人々の健康に対するニーズに看護職は応えていくことが期待されています。新卒からプラチナナースまで、生涯学習を支援し、看護職が自信とやりがいを持って働き続けられる環境づくりに取り組んで参ります。生産人口の減少や医療DXなど、これまで誰も経験したことがない課題に、都道府県看護協会と協働して解決に向けて尽力いたします。

◆◆◆ 地区理事（山形県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



わ か つ き ゆ う こ
若月 裕子 66歳 現

〔勤務先〕

公益社団法人 山形県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

2003年 4 月 米沢市立病院 看護部次長
2013年 4 月 米沢市立病院 副院長兼看護部長
2019年 6 月 公益社団法人山形県看護協会 常任理事
2020年 6 月 公益社団法人山形県看護協会 会長

〔協会活動歴〕

日本看護協会：地区理事（現職）、2023年度認定看護管理者制度の改正に向けた検討委員
山形県看護協会：会長（現職）、常任理事、置賜地域看護管理者事務局代表、認定看護管理者教育課程審査委員、認定教育課程教育運営委員、教育委員

〔抱 負〕

急速に進む少子高齢化社会の中で、保健・医療・介護・福祉と連携し、社会のニーズにそった看護力の発揮が期待されています。

病気や障害を抱えても、住み慣れた地域でその人らしく暮らせることを支援できるよう、生涯学習を重ね、関係機関との顔の見える関係を結び、さらに看護職一人ひとりが働き続けられる勤務環境の整備に取り組めるよう、日本看護協会と県看護協会の連携を強め、課題解決に向け取り組んでまいります。

◆◆◆ 地区理事（福島県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



さとう ひろこ
佐藤 博子 67歳 現

〔勤務先〕

公益社団法人 福島県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1980年 4月 東京大学医学部附属病院 看護師長

2012年 4月 東京大学医科学研究所附属病院 副看護部長

2015年 7月 福島県立医科大学看護学部 准教授

〔協会活動歴〕

日本看護協会：地区理事（現職）

福島県看護協会：会長（現職）、副会長、認定看護管理者教育課程運営委員

〔抱負〕

都道府県看護協会と連携し、看護職のプレゼンス（Presence）を示し、ステータスアップ、処遇改善に繋げていきたい。様々な課題がありますが、看護の質の向上、危機管理の強化、労働環境の改善等関連機関と連絡を図り取り組んで参ります。熱意を持って、根拠をもとに課題を見出し政策提言へと結びつけていくことも必要と考えます。皆さま方のお力添えをいただき看護協会のミッション達成に向けてまいりたいと思います。

◆◆◆ 地区理事（茨城県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



なかじま さだこ
中島 貞子 66歳 新

〔勤務先〕

公益社団法人 茨城県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1980年 4月 茨城県立中央病院

2003年 4月 茨城県立中央病院 看護師長

2012年 4月 茨城県立中央看護専門学校 教頭

2018年 4月 茨城県立中央看護専門学校 学校長

〔協会活動歴〕

茨城県看護協会：専務理事（現職）、常任理事、看護師職能委員、推薦委員

〔抱負〕

少子・高齢社会の進行、地域包括ケアシステムの構築、地域医療構想が進められている中、看護職には更なる役割と活躍が期待されています。その期待に応え、住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らす社会の実現には、看護職があらゆる領域でやりがいを持って、働き続けられる環境体制や人材育成が重要です。地区理事として、都道府県看護協会と連携し、看護の発展に尽力してまいります。

◆◆◆ 地区理事（群馬県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



かみやま ともこ
神山 智子 62歳 **現**

〔勤務先〕

公益社団法人 群馬県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

2015年 4月 群馬県健康福祉部地域包括ケア推進室 補佐（地域包括ケア推進係長）
2017年 4月 群馬県健康福祉部地域包括ケア推進室 認知症専門官（認知症・地域支援係長）
2020年 4月 群馬県健康福祉部保健予防課健康づくり推進室 室長
2021年 4月 群馬県健康福祉部健康長寿社会づくり推進課 課長

〔協会活動歴〕

日本看護協会：地区理事（現職）

群馬県看護協会：会長（現職）、副会長、保健師職能広報出版小委員、高崎地区支部監事、高崎地区支部保健師分会副会長、安中地区支部役員、保健婦職能委員会書記、社会経済福祉委員

〔抱負〕

少子高齢化が進展する中、住民の健康寿命を延伸し、治し支える医療の実現のため、人々の命と健康を守る看護職に求められる役割は増大しています。保健・医療・介護・福祉等の多様な場で、人が生まれる前から、亡くなった後のご家族等へのケアまで関わるができる看護職が役割を発揮し、さらに連携を深め活躍できるよう、現場の声を聴き、地区理事として都道府県看護協会とともに人材育成や労働環境の整備に尽力して参ります。

◆◆◆ 地区理事（埼玉県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



さわと ともこ
澤登 智子 67歳 **現**

〔勤務先〕

公益社団法人 埼玉県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1997年 4月 埼玉県保健所・福祉保健総合センター 担当課長
2006年 4月 埼玉県立大学 准教授
2015年 4月 埼玉県狭山保健所 副所長
2017年 4月 埼玉県立大学 准教授

〔協会活動歴〕

日本看護協会：地区理事（現職）、推薦委員長

埼玉県看護協会：会長（現職）、専務理事、保健師職能理事、倫理審査委員、看護を考える委員、学会委員、推薦委員、保健師職能委員

〔抱負〕

人口減少に伴う看護の労働力不足は、今後、より深刻化すると考えられています。その中でもよりよい看護の持続的提供を目指し、県看護協会との連携を図り事業を推進してまいります。看護職の資質向上に向け、習熟度に対応した教育の展開、職場環境の改善支援、一度職を離れた看護職の職場復帰に向けた各種支援事業等について、効果的に行う体制を追求していきます。さらに看護職間での相互理解の推進と他職種連携に尽力してまいります。

◆◆◆ 地区理事（神奈川県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



もとだて のりこ
本館 教子 66歳 **新**

〔勤務先〕

学校法人 聖マリアンナ医科大学病院

〔主な看護業務従事歴〕

1981年4月 財団法人三友堂病院 看護師
1997年3月 学校法人聖マリアンナ医科大学病院 看護師
2014年4月 学校法人聖マリアンナ医科大学病院 副院長・看護部長
2020年4月 学校法人聖マリアンナ医科大学 看護統括執行役員兼務

〔協会活動歴〕

日本看護協会：選挙管理委員長
神奈川県看護協会：地区支部理事

〔抱負〕

VUCAの時代、そして少子高齢多死社会の中、医療ニーズは複雑化多様化しておりさらに増大しています。地域社会のニーズに対応するためには、看護職確保・看護職の資質向上・看護の質向上・生涯学習支援・働きやすい職場環境づくりが急務の課題と認識しております。地区理事としてこの課題解決に向けて取り組んでまいります。

また日本看護協会が掲げる政策の実現に向けて、連携を図りながら地区理事としての任務を遂行したいと思っております。

◆◆◆ 地区理事（山梨県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



えんどう みどり
遠藤 みどり 67歳 **新**

〔勤務先〕

公立大学法人 山梨県立大学

〔主な看護業務従事歴〕

1980年4月 山梨県立中央病院 看護師・主任看護師
1995年4月 山梨県立看護短期大学 講師
2004年4月 山梨県立大学看護学部・看護学研究科 教授
2013年4月 山梨県立大学看護学部・看護学研究科 教授・研究科長

〔協会活動歴〕

山梨県看護協会：副会長（現職）、看護師職能理事、看護師職能委員長、学会委員長、教育委員長

〔抱負〕

少子・高齢化社会の中で、看護職には人々の多様な健康ニーズに応答できる役割が期待されています。人々の期待に応じ専門職の役割を発揮するためには、2040年を見据えた日本看護協会の看護政策の実現が必須であり、看護の質向上と人材確保・定着、生涯学習支援等の推進が重要と考えます。地区理事として臨床や基礎教育での経験を活かし、日本看護協会と都道府県看護協会との連携強化に努め、課題解決に向けて尽力したいと思います。

◆◆◆ 地区理事（長野県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



まつもと きよみ
松本 清美 62歳 現

〔勤務先〕

公益社団法人 長野県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

2005年 4 月 長野県衛生部健康づくり支援課 主査保健師
2017年 4 月 長野県健康福祉部医療推進課看護係 課長補佐兼係長
2019年 4 月 長野県上田保健福祉事務所 課長
2021年 4 月 長野県須坂看護専門学校 校長

〔協会活動歴〕

日本看護協会：地区理事（現職）

長野県看護協会：会長（現職）、助産師出向支援協議会委員、長野県訪問看護研究委員、保健師職能委員

〔抱負〕

少子超高齢社会の進展、地域包括ケアシステムの深化、ICT化やDXの導入等、私たちが直面する課題は多岐にわたります。これらの課題に対して、看護職が役割を果たすためには専門性を高め、持続可能な支援体制を確立することが不可欠です。総会で「看護の将来ビジョン2040」が公表されます。地区理事としてのこれまでの経験を活かし、都道府県看護協会との更なる連携に努め、ともにビジョンの実現に向けて取り組んでまいります。

◆◆◆ 地区理事（石川県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



こばやし ちづる
小林 千鶴 65歳 新

〔勤務先〕

公益社団法人 石川県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

2010年 4 月 石川県健康福祉部少子化対策監室 主幹、課長補佐
2016年 4 月 石川県健康福祉部健康推進課 課参事
2018年 4 月 石川県石川中央保健福祉センター 保健部次長兼企画調整課長

〔協会活動歴〕

石川県看護協会：専務理事（現職）、推薦委員副委員長、看護師職能Ⅱ理事、保健師職能委員

〔抱負〕

能登半島地震・奥能登豪雨災害に対し、日本看護協会ははじめ全国から多くの看護職のご支援に感謝しております。コロナ禍や震災を経て、改めて看護職の力強さを実感しました。若い世代に看護職の魅力を伝えつつ、2040年を見据えた看護提供体制の実現に向け、看護職の確保と人材育成、各職能間の連携推進、働き方改革などに取り組んでまいります。日本看護協会が掲げる看護政策実現のため、県協会との連携を強化し尽力いたします。

◆◆◆ 地区理事（福井県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



い が ら し ゆ き え
五十嵐 行江

61歳

新

〔勤務先〕

公益社団法人 福井県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

2014年 7 月 国立大学法人福井大学医学部附属病院 看護師長
2018年 4 月 国立大学法人福井大学医学部附属病院 副看護部長
2021年 4 月 国立大学法人福井大学医学部附属病院 副病院長・看護部長

〔協会活動歴〕

福井県看護協会：常務理事（現職）、理事（看護師職能Ⅰ）、記念誌検討委員、認定看護管理者教育運営委員、理事（福井第三地区）、推薦委員

〔抱負〕

変化が著しく、新興感染症や自然災害等の多発する社会において、看護も素早く柔軟に対応できる能力が求められます。その実現に向けて、看護職の人材育成や働き続けられる環境づくり、地域の健康危機管理体制の構築に取り組んでまいります。

また、日本看護協会地区理事として、県協会との連携をさらに強化し、課題解決と看護政策実現にむけて尽力いたします。

◆◆◆ 地区理事（静岡県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



まつもと し ほ こ
松本 志保子

66歳

現

〔勤務先〕

公益社団法人 静岡県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

2008年 4 月 市立島田市民病院（現島田市立総合医療センター） 看護副部長
2012年 4 月 医療法人弘遠会 すずかけヘルスケアホスピタル 看護部長
2019年 4 月 医療法人社団正心会 岡本石井病院 看護部長
2023年 6 月 公益社団法人静岡県看護協会 会長

〔協会活動歴〕

日本看護協会：地区理事（現職）、認定看護管理者制度委員（現職）
静岡県看護協会：会長（現職）、看護師職能理事、教育課程修了審査委員

〔抱負〕

社会状況が刻々と変化する中、人々の健康ニーズは複雑化、多様化しています。看護職にはこれまで以上に専門職としての役割発揮と拡大が期待されています。地区理事として、都道府県看護協会と連携し、地域共生社会における看護提供体制を検討し整備していきます。さらに看護職がその役割をしっかりと遂行し、誇りをもっていきいきと活躍できる環境の整備に取り組んでまいります。

◆◆◆ 地区理事（三重県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



たに ますみ
谷 眞澄

68歳

現

〔勤務先〕

公益社団法人 三重県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

2008年4月 日本赤十字社 伊勢赤十字病院（旧山田赤十字病院）看護副部長
2013年4月 日本赤十字社に出向 医療事業部参事
2015年4月 日本赤十字社 伊勢赤十字病院 看護部長
2016年4月 日本赤十字社 伊勢赤十字病院 副院長兼看護部長

〔協会活動歴〕

日本看護協会：地区理事（現職）、院内事故調査にかかわる専門家
三重県看護協会：会長（現職）、専務理事、副会長、地区理事

〔抱負〕

少子超高齢社会の進展下、災害や感染症等への対応など、2040年を見据え看護職には多様な場での活躍が求められます。人材確保が困難な中、社会の期待に応えるため、自律した質の高い看護職確保につながるよう、教育体制整備や処遇改善、DXを活用した業務改善など、看護職が働き続けられる環境整備が課題です。多様な場で役割発揮ができるよう県協会と連携し看護政策実現に向け尽力いたします。

◆◆◆ 地区理事（兵庫県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



まるやま みつこ
丸山 美津子

66歳

現

〔勤務先〕

公益社団法人 兵庫県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1981年4月 兵庫医科大学病院 スタッフ
1991年4月 兵庫医科大学病院 看護師長
2010年4月 兵庫医科大学病院 看護部次長
2017年4月 兵庫医科大学病院 副院長・看護部長

〔協会活動歴〕

日本看護協会：地区理事（現職）
兵庫県看護協会：会長（現職）、看護管理者活動推進委員、看護師職能Ⅰ委員長、教育企画委員、兵庫県医療ITワーキング、医療・看護・安全特別委員

〔抱負〕

保健・医療・福祉を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、2040年を見据え、質の高い人材育成・確保・定着、看護提供体制の整備が課題です。その課題解決の鍵となる看護管理者の能力開発に向けて、県看護協会と協働し、教育を充実させていきたいと思ひます。また、激甚化する災害への対応、防災・減災、受援体制の整備に向けて、災害支援ナースの育成と共に彼らの平時の活動を活性化し、質の維持向上に努めます。

◆◆◆ 地区理事（鳥取県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



まつもと みちこ
松本 美智子 67歳 現

〔勤務先〕

公益社団法人 鳥取県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1986年 4月 鳥取県立鳥取看護専門学校 専任教員
1998年 4月 鳥取県立中央病院 看護師長
2004年 4月 鳥取県立中央病院 看護局副局長
2010年 4月 鳥取県立中央病院 看護局長

〔協会活動歴〕

日本看護協会：地区理事（現職）

鳥取県看護協会：会長（現職）、副会長、看護協会運営特別委員、監事、訪問看護ステーション運営特別委員、ワーク・ライフ・バランス推進特別委員、認定看護管理者ファーストレベル研修委員

〔抱負〕

少子高齢化の進展に伴い、看護職への役割期待はますます拡大しますが、一方で医療人材確保はより深刻さを増し、抱える課題も地域によって異なってきます。看護の質を維持しつつ、人材不足を補うには、多様な働き方や看護業務の整理・効率化の推進、生涯学習支援の推進、処遇改善など課題は山積しています。看護職がやりがいを持って生き生きと働き続けられるよう、都道府県看護協会と連携し、課題解決に向けて尽力します。

◆◆◆ 地区理事（島根県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



いけだ やすえ
池田 康枝 66歳 現

〔勤務先〕

公益社団法人 島根県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1997年 4月 島根県健康福祉部医療対策室 主任
2010年 4月 島根県立中央病院 第一病棟部門看護部長
2014年 4月 島根県立中央病院 看護局次長
2016年 4月 島根県立中央病院 看護局長

〔協会活動歴〕

日本看護協会：地区理事（現職）

島根県看護協会：会長（現職）、専務理事、ナースセンター長、出雲支部理事、社会経済福祉委員、広報委員

〔抱負〕

県協会では、全国に先駆け人口減少・少子高齢化という課題に直面しており、令和5年4月に訪問看護支援センターを開設し、多様化する在宅医療のニーズに対応できるように支援活動を行ってまいりました。その経験を活かし、新しい地域医療構想の検討が始まる中、看護職の立場として現場の声を行政へ提言し、また、深刻化する看護人材の不足に対して、看護の質向上とともに若年層への看護魅力発信の強化にも尽力してまいります。

◆◆◆ 地区理事（広島県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



くろせ まりこ
黒瀬 真理子

62歳

新

〔勤務先〕

広島赤十字・原爆病院

〔主な看護業務従事歴〕

2006年4月 広島赤十字・原爆病院 看護師長
2012年4月 広島赤十字・原爆病院 副看護部長
2018年10月 広島赤十字・原爆病院 看護部長
2021年4月 広島赤十字・原爆病院 副院長兼看護部長

〔協会活動歴〕

広島県看護協会：副会長（現職）、将来構想検討委員（現職）、支部理事、看護研究倫理審査委員、社会経済福祉委員、第37回日本看護学会-小児学会-準備委員、教育委員

〔抱負〕

少子高齢化が進む中で地域包括ケアシステムの推進、新興感染症や自然災害への対応など看護職への期待はこれまで以上に大きくなっています。その期待に応えるためには、人材の確保や育成、働く環境の整備等多くの課題に取り組む必要があります。2040年に向けた新たな「看護の将来ビジョン」のもと、看護職一人ひとりが生き活きとその力を発揮できるよう、地区理事として県看護協会と協働し、課題に取り組んでまいります。

◆◆◆ 地区理事（山口県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



はらだ みさ
原田 美佐

60歳

新

〔勤務先〕

山口大学医学部附属病院

〔主な看護業務従事歴〕

1986年4月 山口大学医学部附属病院 看護師
1992年4月 山口大学医療技術短期大学部・看護学科 助手
2010年4月 山口大学医学部附属病院 副看護部長
2017年4月 山口大学医学部附属病院 副病院長・看護部長

〔協会活動歴〕

日本看護協会：第48回日本看護学会-ヘルスプロモーション-学術集会準備委員、第41回日本看護学会-看護総合-学術集会準備委員
山口県看護協会：監事（現職）、認定看護管理者教育運営委員（現職）

〔抱負〕

社会が大きく変化する中、看護職はその専門性の発揮を大いに期待されています。私は日本看護協会地区理事として、看護職一人ひとりが自身の能力を十分に発揮し、自信と誇りを持って働き続けられるように貢献して参ります。

そのために本会と県看護協会との連携を図り、協会役員・支部長等と情報共有を行いながら、持続可能な医療提供体制の構築を含めて、地域で暮らす方々がその人らしく、安心して生活できるように尽力して参ります。

◆◆◆ 地区理事（徳島県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



しょうの やすの
庄野 泰乃 63歳 **新**

〔勤務先〕

公益社団法人 徳島県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

2009年4月 徳島赤十字病院 看護部長
2013年4月 徳島赤十字病院 副院長兼看護部長
2021年4月 日本赤十字社医療事業推進本部看護部 副本部長兼看護部長
2021年4月 日本赤十字社幹部看護師研修センター 所長

〔協会活動歴〕

日本看護協会：生涯学習体制構築のためのクリニカルラダー見直しワーキンググループ委員、労働と看護の質データベース事業の推進に関する検討会委員

徳島県看護協会：教育担当（認定看護管理者教育）（現職）、支部長、理事、看護の心普及プロジェクトチーム委員、認定看護管理者教育運営委員、医療・看護安全対策委員、教育委員

〔抱負〕

少子超高齢社会の人口・疾病構造の変化や大規模災害の発生等により、人々の健康と生活を支える看護職への期待は益々大きくなっています。その期待に応えるため、地域の看護職の組織力を強化し、人々の健康な生活の実現に貢献できるよう努めます。また、2040年を見据え地区理事として県看護協会と連携を図り、現場の声を聞き、看護職が誇りとやりがいを持ち働き続けられるよう、生涯学習支援や労働環境の整備等に尽力します。

◆◆◆ 地区理事（愛媛県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



くぼ さち
久保 幸 63歳 **現**

〔勤務先〕

公益社団法人 愛媛県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1993年4月 愛媛大学医学部附属病院 副看護師長
2001年4月 愛媛大学医学部附属病院 看護師長
2016年4月 愛媛大学医学部附属病院 副看護部長
2017年4月 愛媛大学医学部附属病院 副病院長看護部長

〔協会活動歴〕

日本看護協会：地区理事（現職）

愛媛県看護協会：会長（現職）、専務理事、理事（副会長・看護師職能Ⅰ委員長）、教育委員

〔抱負〕

少子高齢化、人口減少、新興感染症や自然災害等を背景に、看護の現場は、多様で複雑なニーズに対する様々な課題が生じています。特に、2040年を見据えた課題は、いのち・暮らし・尊厳を守り支える看護を提供するための看護職の質と量の確保です。地区理事として、日本看護協会と県協会の連携を図り、看護職を目指す人の確保、看護職の生涯学習支援、やりがいをもって生き生きと働き続けられる環境づくりに尽力します。

◆◆◆ 地区理事（高知県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



もりした やすこ
森下 安子 67歳 **新**

〔勤務先〕

高知県立大学

〔主な看護業務従事歴〕

1980年 4月 順天堂大学医学部附属順天堂医院

1982年10月 高知市役所

1999年 4月 高知女子大学看護学部 講師

2011年 4月 高知県立大学看護学部 教授

〔協会活動歴〕

高知県看護協会：在宅領域看護検討委員（現職）、地域包括ケア検討委員（現職）、第1副会長

〔抱 負〕

2040年問題に向け、保健・医療・福祉を取り巻く環境は大きく変化しようとしています。さらに、大規模災害、新興感染症の発生等で、いのちと暮らし、尊厳をまもり支えている看護職への役割拡大、多様な分野での看護の質向上が期待されています。看護職が、このような社会のニーズに柔軟に対応し、自信、誇りをもって働き続けられるよう、人材確保、人材育成、職場整備等の課題解決に向け、県協会と連携し取り組んでまいります。

◆◆◆ 地区理事（福岡県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



はまだ まさみ
濱田 正美 63歳 **新**

〔勤務先〕

公益社団法人 福岡県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1984年 3月 九州大学医学部附属病院（現 九州大学病院） 看護師

2013年 4月 国立大学法人九州大学病院 副看護部長

2015年 4月 国立大学法人九州大学病院 看護部長

2016年 4月 国立大学法人九州大学病院 副病院長兼看護部長

〔協会活動歴〕

日本看護協会：日本看護学会誌論文査読委員

福岡県看護協会：常任理事（現職）、認定看護管理者教育運営委員

〔抱 負〕

全世代型地域包括ケアシステムが推進されるなか、人々が健康に、又は病を持ちながらも住み慣れた地域で、自分らしく生きようとする力を引き出すのが看護の力であり求められるものであります。

そのためには、看護の質向上と多職種との連携・協働に努め、看護職が、看護を魅力あるものと感じ、誇りを持ちながら働き続けられるための支援が必要です。都道府県看護協会と連携を図り、事業等の推進に尽力してまいります。

◆◆◆ 地区理事（佐賀県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



ふじみつ さちこ
藤満 幸子 62歳 新

〔勤務先〕

国立大学法人 佐賀大学医学部附属病院

〔主な看護業務従事歴〕

2002年10月 国立大学法人佐賀大学医学部附属病院 副看護部長
2016年4月 国立大学法人佐賀大学医学部附属病院 副病院長看護部長
2023年4月 国立大学法人佐賀大学医学部附属病院 医療教育研修センター長

〔協会活動歴〕

佐賀県看護協会：研究倫理委員、看護制度特別委員、認定看護管理者教育運営委員長、ワーク・ライフ・バランス推進委員、看護夢ナビ事業推進委員、職能理事（看護師職能Ⅰ）

〔抱負〕

2040年の社会状況を見据え、現役世代急減の中では、看護職の人材確保のための多様な就労促進と資質向上、及び医療・介護サービスの確保としてのテクノロジー等の活用による生産性の向上が必須と考えています。力強い看護職能団体の地区理事として、喫緊の課題に取り組み、医療と生活の質の両方の視点をもつ看護職が、その専門性を十分に発揮できるよう、新たな「看護の将来ビジョン」の政策実現に向け尽力してまいります。

◆◆◆ 地区理事（大分県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



たま い やす こ
玉井 保子 64歳 新

〔勤務先〕

公益社団法人 大分県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1987年4月 大分県立厚生学院 専任教員
2007年4月 大分県立病院 看護師長
2012年4月 豊後大野市民病院 看護部長
2016年5月 大分県立病院 副院長兼看護部長

〔協会活動歴〕

大分県看護協会：副会長（現職）、監事、組織強化委員、地区理事

〔抱負〕

超高齢化・人口減少が急速に進行する中、人々の健康な暮らしを支えるためには、これまで以上に看護職の確保や質向上の強化が必要とされています。そのためにも看護職一人ひとりがキャリアを重ねられる、働きやすい社会にしていかなければなりません。

2040年を見据え、都道府県看護協会と連携し、地区理事として組織力の強化や看護の課題解決に向けて尽力してまいります。

◆◆◆ 地区理事（沖縄県） ◆◆◆

推薦委員会推薦



たいら たかみ
平良 孝美 66歳 現

〔勤務先〕

公益社団法人 沖縄県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1991年 4月 沖縄県立沖縄看護学校 専任教員
2003年 4月 沖縄県福祉保健部医務国保課 主任技師
2015年 4月 沖縄県病院事業局県立病院課 看護企画監
2017年 4月 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 副院長

〔協会活動歴〕

日本看護協会：地区理事（現職）

沖縄県看護協会：会長（現職）、監事、緩和ケア認定看護師教育課程運営委員、研究倫理委員、ワーク・ライフ・バランス推進委員、認定看護管理者教育運営委員、論文査読委員、看護師職能委員

〔抱負〕

少子超高齢社会の進展や疾病構造の変化など、医療をめぐる状況は大きく変化し、人々の健康課題が複雑化・多様化する中、人々の健康と療養生活の支援を担う看護職への期待は今後さらに増してきます。日本看護協会の「看護の将来ビジョン」達成に向けて、看護職が様々な場で専門職としての役割を発揮できるよう、教育の充実や働き続けられる環境整備の推進等、県看護協会との連携を強化して取り組んでまいります。

◆◆◆ 監事（業務運営に精通した者） ◆◆◆

推薦委員会推薦



さとう えつこ
佐藤 悦子 69歳 新

〔勤務先〕

公益社団法人 山梨県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1978年 5月 山梨県保健師 吉田保健所道志村派遣 技師
2007年 4月 山梨県立大学看護学部（兼）同大学院看護学研究科 教授
2021年 4月 山梨県立大学大学院看護学研究科博士後期課程 特任教授
名誉教授
2021年 6月 山梨県看護協会 会長

〔協会活動歴〕

日本看護協会：地区理事（現職）

山梨県看護協会：会長（現職）、副会長、在宅ケア推進委員長

〔抱負〕

2040年に向けて看護へのニーズはますます高まっています。社会の変化を見据え、人々のいのち・暮らし・尊厳を守り支える看護を提供するために、また看護職一人一人が生き生きと働き続けられるために看護協会という専門職能団体がどう取り組んでいくのか、真剣な議論が必要です。組織としてその実現のために、しっかりと力が発揮できますように、監事という立ち位置の中で、その役割を果たしていきたいと思えます。

◆◆◆ 推薦委員 ◆◆◆

推薦委員会推薦



あおき はるみ 青木 春美 70歳 新

〔勤務先〕

公益社団法人 静岡県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

2008年4月 掛川市立総合病院 看護部長

2014年4月 掛川市・袋井市企業団立中東遠総合医療センター 副院長
兼看護部長

2015年4月 医療法人社団綾和会掛川東病院・桔梗の丘 看護介護部総
看護師長

2017年12月 公益社団法人静岡県看護協会立訪問看護ステーション大東
所長

〔協会活動歴〕

静岡県看護協会：専務理事（現職）

〔抱負〕

本格的な人口減少社会における社会状況は目まぐるしく変化し、看護職の働く環境への影響や社会が求める看護職への期待と役割も大きく変化していきます。そのような中、日本看護協会はその期待に応えるために様々な活動を行います。推薦委員として、日本看護協会の掲げる重点政策・重点事業の実現に向けて積極的に取り組むことができる人材の推薦に努めます。

◆◆◆ 推薦委員 ◆◆◆

推薦委員会推薦



いとう えみこ 伊東 恵美子 58歳 新

〔勤務先〕

医療法人財団 立川中央病院

〔主な看護業務従事歴〕

1989年3月 医療法人財団 立川中央病院

2001年4月 医療法人財団 立川中央病院 師長

2009年10月 医療法人財団 立川中央病院 看護部長

2024年4月 医療法人財団 立川中央病院 副院長兼看護部長

〔協会活動歴〕

東京都看護協会：多摩北地区理事（現職）、地域包括ケア委員（現職）

〔抱負〕

少子超高齢化・多死社会を迎え、医療・介護・福祉の在り方も変化し、新興感染症や自然災害など危機管理を含め看護職の担う役割機能は拡大し、看護職に課せられる期待も大きくなっています。これから2040年に向けた新たな「看護の将来ビジョン」を見据えた看護政策の実現が重要と考えます。そのため専門職能団体の役割を理解し、看護職が輝き働き続けられるよう、課題解決に向けて尽力いただける人材の推薦に努めてまいります。

◆◆◆ 推薦委員 ◆◆◆

推薦委員会推薦



すみにに

炭谷 みどり

54歳

新

〔勤務先〕

医療法人社団 宏治会 ののいち産婦人科クリニック

〔主な看護業務従事歴〕

1993年 4 月 金沢大学医学部附属病院 助産師

1996年 4 月 金沢大学医学部保健学科 助手

2001年 4 月 医療法人社団宏治会 野々市産婦人科医院 助産師

2015年 1 月 医療法人社団宏治会 ののいち産婦人科クリニック 役員

〔協会活動歴〕

石川県看護協会：副会長（現職）

〔抱負〕

看護職が数多の職業の中でも魅力ある職業の一つとして、さらに認知されるよう、看護職の魅力発信や看護者の人材育成の充実を目指し、人口偏在・人的不足に伴う地域看護の課題に尽力される人材を推薦できるよう努めてまいります。

◆◆◆ 推薦委員 ◆◆◆

推薦委員会推薦



た

瀬

ゆう

子

64歳

新

〔勤務先〕

公益社団法人 山形県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1983年 4 月 山形県立中央病院 看護師

2010年 4 月 山形県庁健康福祉部 看護師確保対策主査

2019年 4 月 山形県立中央病院 副看護部長

2022年 4 月 公益社団法人山形県看護協会 常任理事

〔協会活動歴〕

山形県看護協会：常任理事（現職）、ナースセンター長（現職）、書記理事

〔抱負〕

日本看護協会は新たな「看護の将来ビジョン」に向け取り組んでおり、看護職の役割は更に重要となってきますが、少子高齢化が想定以上の早さで進み、出生数の減少に歯止めがかからない状況となっています。今後、2040年に向け、DXや働き続けられる環境づくりの推進を行い、人材確保及び看護の質の向上に努めていく必要があります。看護の役割や方向性を示し、前向きに課題解決に取り組んでいただける人材の推薦に努めてまいります。

◆◆◆ 推薦委員 ◆◆◆

推薦委員会推薦



たにぐち
谷口

りえ
理恵

61歳

新

〔勤務先〕

総合病院 庄原赤十字病院

〔主な看護業務従事歴〕

2010年 4 月 庄原赤十字病院 看護副部長

2017年 4 月 庄原赤十字病院 看護部長

〔協会活動歴〕

広島県看護協会：常任理事（現職）、看護生涯教育・研究センター運営会議委員（現職）、認定看護管理者教育課程運営委員

〔抱負〕

激動の社会情勢の中、2040年以降に向かう看護職への期待と役割は拡大しております。日本看護協会では、2025年度には将来を見据えた新ビジョンが策定されます。看護職がやりがいと誇りをもって働き続けられますよう、新ビジョンを深く理解し、看護を取り巻く課題に真摯に向き合い、創造力と推進力をもって日本看護協会の活動に尽力できる人材を推薦することに努めてまいります。

◆◆◆ 推薦委員 ◆◆◆

推薦委員会推薦



にいの
新納

いくこ
郁子

63歳

新

〔勤務先〕

公益社団法人 長野県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1984年 4 月 順天堂大学附属病院

1994年10月 東御市民病院 看護師長

2019年 4 月 東御市民病院 看護部長

2021年 4 月 東御市民病院 副院長兼看護部長

〔協会活動歴〕

長野県看護協会：看護師職能委員

〔抱負〕

人口減少に伴う社会環境の変化によって看護職の働き方や期待される役割も大きく変わりつつあります。看護職が生涯にわたり誇りとやりがいをもって働き続けられるよう、日本看護協会の事業推進に寄与できるような人材の推薦に努めるとともに、推薦委員の任務を果たして参ります。

◆◆◆ 推薦委員 ◆◆◆

推薦委員会推薦



にしおか れいこ 西岡 令子 66歳 新

〔勤務先〕

公益社団法人 奈良県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1982年 3月 榛原町立榛原総合病院 看護婦
2007年 4月 宇陀市立病院 看護部長
2016年 4月 宇陀市立病院 副院長兼看護部長
2019年 4月 宇陀市立病院 地域医療部地域連携室課長兼入退院支援センター室長

〔協会活動歴〕

奈良県看護協会：専務理事（現職）、看護労働環境改善推進委員長、看護師職能理事、東和地区支部委員、広報出版委員

〔抱負〕

少子高齢化の進展や社会情勢の変化の中、看護職の役割・機能の拡大は今まで以上に期待されています。また、多発する自然災害の中、地域住民を守り安全で安定した保健・医療・福祉の提供をするために、地域包括ケアの推進、看護職の人材確保や育成、働く環境の整備に取り組む必要があります。日本看護協会が、社会から期待される役割発揮や会員のニーズに応えられる職能団体として、積極的に活動できる人材の推薦に努めて参ります。

◆◆◆ 推薦委員 ◆◆◆

推薦委員会推薦



はた さちえ 畑 幸枝 64歳 新

〔勤務先〕

国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院

〔主な看護業務従事歴〕

1980年 4月 国家公務員共済組合連合会 大手前病院 看護部次長
2010年 9月 国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院 看護部長

〔協会活動歴〕

大阪府看護協会：支部理事

〔抱負〕

本格的な少子高齢化・人口減少社会に突入し、頻発する自然災害、新興感染症の発生等、社会情勢は目まぐるしく変化しており、看護職に求められる役割、期待はますます増大しています。人々が住み慣れた地域でその人らしい生活を安心して営めるよう、看護の質の向上とともに、看護人材の確保や働き続けられる職場改善と看護職等の処遇改善の実現に向け尽力して頂ける方の推薦に努めて参ります。

◆◆◆ 推薦委員 ◆◆◆

推薦委員会推薦



はやかわ

早川 みつほ

62歳

新

〔勤務先〕

公益社団法人 神奈川県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

1992年4月 神奈川県立看護専門学校 専任教員 主査
 2004年4月 社会福祉法人恩賜財団神奈川県支部神奈川県済生会神奈川県病院 看護課長
 2007年3月 社会福祉法人恩賜財団神奈川県支部神奈川県済生会横浜市東部病院 副看護部長
 2023年4月 社会福祉法人恩賜財団神奈川県支部神奈川県済生会 横浜市東部病院人材開発センター 小児プライマリケア認定看護師教育課程室 室長代理

〔協会活動歴〕

神奈川県看護協会：常務理事（現職）、横浜第一支部委員

〔抱負〕

少子高齢化や感染症、災害等といった社会の課題が山積する中、看護職への期待はますます高まっています。この機に、看護職の専門性を高め、社会への貢献を果たすことが重要と考えます。そこで、多岐に渡る日本看護協会の施策に関して、現場の声を尊重し、課題解決に向けてリーダーシップを発揮できる人材を見極め、推薦する役割を果たしてまいります。

◆◆◆ 推薦委員 ◆◆◆

推薦委員会推薦



やまもと

じゅん こ

山本 純子

65歳

新

〔勤務先〕

公益社団法人 北海道看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

2007年6月 北海道保健福祉部保健医療局・医療政策局 主査
 2013年4月 釧路総合振興局保健環境部保健行政室 子ども・健康推進課長
 2015年6月 空知総合振興局保健環境部保健行政室 健康推進課長
 2020年6月 公益社団法人北海道看護協会 常務理事

〔協会活動歴〕

日本看護協会：推薦委員

北海道看護協会：常務理事（現職）、認定看護管理者教育運営委員（現職）、推薦委員

〔抱負〕

少子超高齢社会を迎え、国民の看護職への期待は高まっており、2040年を見据えた地域の人々の健康と生活をどのように支えるのか、新たな医療・看護提供体制のあり方を模索するなど、更なる取り組みの強化が求められています。看護職が人々の健康と尊厳を守り、幸福な生活の実現に向け、看護職能団体としての役割の発揮と将来を見据えた活動の推進や、日本看護協会の重点政策・重点事業の実現に貢献できる人材の推薦に努めて参ります。

◆◆◆ 推薦委員 ◆◆◆

推薦委員会推薦



よしだ ちえみ
吉田 智枝美

68歳

新

〔勤務先〕

公益社団法人 沖縄県看護協会

〔主な看護業務従事歴〕

2011年4月 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 看護師長（主幹）
2013年4月 沖縄県立中部病院 副看護部長
2015年4月 沖縄県立北部病院 副院長兼看護部長
2016年4月 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 副院長

〔協会活動歴〕

沖縄県看護協会：専務理事（現職）、常任理事、研究倫理審査委員、沖縄県看護協会創立65周年記念事業企画運営委員、ワーク・ライフ・バランス推進委員、全区理事、論文査読委員、教育委員

〔抱負〕

看護が多様な場であらゆる世代の人々の健康を支えていくためには、個々の看護師がその能力を高め、十分に発揮し、より効率的に活動することを通じて、看護提供の質と量の両面から保証することが求められています。そのような中、日本看護協会は2040年を見据え、さまざまな取り組みを行っています。

推薦委員として、日本看護協会が掲げる事業の実現に貢献できる人材を推薦できるように活動してまいります。

